

令和6年度第2回一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会

日 時 令和6年10月9日（水）
午後2時00分～午後3時30分
会 場 一関市役所 3階特別会議室

次 第

1 開 会

2 挨 拶

3 協議事項

- (1) 令和6年度第1回一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会の意見、質問について
- (2) 第2次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン成果指標（KPI）に対する実績について
- (3) 第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン改定等スケジュールについて

4 その他

5 閉 会

令和6年度第2回一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会 市出席者名簿

令和6年10月9日開催

No.	役 職	氏 名	備 考
1	市長公室長	今野 薫	
2	市長公室次長 兼 政策企画課長	飯村 昌弘	
3	市長公室 政策企画課長補佐 兼 政策推進係長	小山 隆之	
4	市長公室 政策企画課 主任主査	佐々木 さやか	
5	市長公室 政策企画課 主任主事	渡辺 苑子	
6	市長公室 政策企画課 主任主事	谷藤 義拓	

令和6年度第1回一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会（6月5日（水）開催）における意見・質問等について

No.	政策分野	ページ	意見・質問	回答
1	外部人材の確保	36	D X地域活性化事業について、どの様な方のスマートフォン講座の参加者を見込んでいるのか。	【一関市】（懇談会での回答のとおり） スマートフォンを使い慣れていない高齢者の方の参加を見込んでいます。
2	外部人材の確保	36	スマートフォン講座を開催することで、市のD Xに関するマネジメント能力の成果として得られるものは何か。	【一関市】（懇談会での回答のとおり） ほとんどの世代がスマートフォンを利用しており、様々な行政サービスに活用している一方で、スマートフォンを使えない方が取り残されていく（デジタル・ディバイド）ため、その解消に取り組み、誰でもサービスを受けてもらえるよう進めていくものです。 圏域全体で年齢に関係なくデジタルを使える人が多くなることで、更にD X推進の取組を進めていきたいと考えています。
3	外部人材の確保	36	D Xの推進について、こどもたちがプログラミングなどでこの地域で利用できるものを生み出していく方向にすればよいのではないのか。	【一関市】（懇談会での回答のとおり） こどもたちに対するD Xの推進は非常に重要と捉えています。 一関市では一関工業高等専門学校生の協力をいただき、小中学生に対するプログラミング教室を開催したり学校のカリキュラムにもプログラミング等が組み込まれており、ものづくり人材を育てていこうという考え方を持って取り組んでいます。
4	産業振興	19	農林水産業6次産業化支援事業について、2026年度以降に事業費が減少する理由は何か。	【一関市】（懇談会での回答のとおり） 現在の農林水産業6次産業化支援事業（農商工連携開発事業費補助金）の2026年度以降の予算は、次期総合計画の指標と整合を図る形で内容を精査することとしているため、2025年度までの事業費を計上しています。
5	産業振興	14	観光地間二次交通整備事業について、過去に狛鼻溪平泉巖美溪線を運行していた実績があるが、D Xや情報発信等の手段を活用し（A Iによるバス予約調整、SNSによる情報発信の活用など）、再度運行することは可能か検討していただきたい。	【一関市】 <u>岩手県交通株式会社の自主運行路線「巖美溪・平泉線」は、令和7年3月31日をもって路線廃止にする旨を岩手県交通株式会社から伺っています。</u> 現在、東磐交通株式会社に補助金を支出し、 <u>観光地間二次交通バス「平泉・げいび溪線」を運行していますが、赤字路線</u> であり費用対効果などの理由から、巖美溪までの延長運行は困難な状況となっています。

No.	政策分野	ページ	意見・質問	回答
6	産業振興	14	インバウンド推進事業について、2024年度の事業費が21,701千円に対し、2028年度の予算が8,659千円に縮小しているが、事業内容事業費が縮小する理由は何か。	<p>【一関市】（懇談会での回答のとおり） 総合計画実施計画により、向こう3年間の予算は計上されているが、4年目以降の経費は経常経費のみ計上されているため、事業費が縮小しているものです。</p> <p>【平泉町】 国際交流員活用事業については、語学指導等を行う外国人青年招致事業（JETプログラム）を活用し、平成29年7月から令和4年7月までの期間は英語圏から、令和5年度から令和9年度までは中国圏から国際交流員を招聘し、インバウンド観光推進の取組を進めていくため事業費を計上しています。 <u>令和10年度以降については、この期間におけるインバウンド需要やインバウンド観光推進のターゲットの動向を見ながら、事業実施を検討します。</u></p>
7	協働のまちづくり	33	多文化共生推進事業について、少子高齢化が進むアジア地域においては外国人労働者に頼る地域が多く、日本はその地域と競争をしなければならない中で、外国人労働者の待遇等に踏み込み、移住していただける様な政策を行えるのかどうか課題であると考えているが、市として目標や理想という形ではなく、国際的な外国人労働者の確保問題に具体性を持って、前進できるようにしていただきたい。	<p>【一関市】（懇談会での回答のとおり） 市は人口減少、少子化を重要な課題と捉え、日本人に限らず、外国人に選ばれる働きやすく暮らしやすいまちづくりを進めています。 令和5年度に、ベトナムの高等教育機関であるハノイ電機短期大学と市、一関工業高等専門学校、一関商工会議所の4者で連携協定を締結し、この協定により、求人情報を大学に提供して、該当大学の学生の採用につながるよう取り組んでいます。 また、ベトナムの地方行政機関と友好関係の覚書を締結し、ベトナム人材の送り出しと受入れについて共同で取り組むことについて協議を進めています。 外国人労働者に対する国の施策については、令和6年6月に、出入国管理及び難民認定法及び外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律の一部を改正する法律が国会で可決・成立し、技能実習に代わる新たな制度として育成就労が新設され、これまでの「開発途上地域等の経済発展を担う『人づくり』」への協力から、「育成就労における人材の確保」へと目的が改められました。 市としては、この制度変更を転機と捉え、市内の事業所に対して<u>制度変更への理解を促すための研修会を開催するほか、外国人労働者に日本の文化や暮らしを理解していただくための事業を行うなど、外国人労働者の確保に向け取り組んでいきたいと考えています。</u></p>

No.	政策分野	ページ	意見・質問	回答
8	福祉		平泉町の高齢者は一関市の病院へ通院することから、社会福祉協議会では移送ボランティアを行っているが、その支援体制について共生ビジョンに位置付けることはできないか。	<p>【平泉町】 福祉有償運送については、両磐地域福祉有償運送共同運営協議会が自家用有償旅客運送の申請等の協議を行い、登録事業者が運行を行っていることから、<u>現状では共生ビジョンへ位置づけることは難しいと</u>考えています。 <u>今後も平泉町社会福祉協議会や関係機関と連携を図りながら、取り組んで参ります。</u></p>
9	福祉		高齢者だけではなく、障がいを持ち運転ができない方、経済的に困窮し免許を持っていない方が、病気に際して1人で病院に行けない等の例が出てきていることから、第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの中で、障がい者支援や福祉分野での取組を考えていただきたい。	<p>【一関市】 障がいを持ち運転ができない方が、通院する際に利用できる障がい福祉サービス「居宅介護の通院等介助」や社会活動を営む上での外出支援「移動支援事業」の<u>適切な利用が促進されるよう、制度について広く周知していきます。</u> 経済的に困窮し免許を持っていない方で生活保護を受給している方につきましては、通院時に移送費の扶助制度があります。 また、<u>障害者福祉乗車券などの交付により、バス・タクシー料金の一部助成を行っています。</u></p>
10	福祉		介護人材を養成する研修会を受ける個人の方に対しては、市でも強力な支援を行っているが、期間中に一定のレベルに到達するのは難しいことから、受講する個人に対する支援だけではなく、主催する側に対する事業費の補助事業の取組を考えていただきたい。	<p>【一関市】 個人以外に対する支援として、<u>無資格者を雇用した法人に対し、研修受講費用相当額などを補助する、介護保険施設等人材育成事業費補助金を実施</u>しています。 現在のところ、研修を主催する側への補助は想定しておりません。</p>
11	協働のまちづくり		県道の草刈り等を地域が実施し、補助をもらう仕組みがあるが、地域コミュニティとして若者が中心となり、市道や町道でも実施できればよいのではないかと考えているがいかがか。	<p>【一関市】 市道の草刈り等を地域が行った場合、<u>自治会等活動費総合補助金を活用</u>することができます。 この補助制度では、<u>道路側溝の土砂上げや草刈り作業などの環境美化活動に必要な草刈り機械の燃料費、軍手などの消耗品など活動に係る経費を補助</u>の対象としています。</p>

No.	政策分野	ページ	意見・質問	回答
12	産業振興	18	農産物のブランド化などの産業振興について、6月1日からHACCP（ハサップ）が漬物まで及び、高齢者はどンドン手を引いており、もったいないと感じ、何とか残していけないものかと思う。	<p>【一関市】</p> <p>漬物の製造については、食中毒等の防止を主な目的とする改正食品衛生法の経過措置が令和6年5月末で終了し、6月1日から営業許可が必要となりました。</p> <p>食品加工事業者自らが安全管理を徹底していただけるよう、関係機関と連携して情報提供に努めます。</p>
13	教育及び文化	26	世界遺産「平泉」の構成資産及び個別資産の調査研究と保存管理の協定の内容について、一関市の役割欄に記載のある個別資産とは何を指しているのか。	<p>【一関市】（懇談会での回答のとおり）</p> <p>世界遺産拡張登録を目指す候補資産を個別資産と呼んでおり、一関市の役割欄にある個別資産は骨寺村荘園遺跡です。</p> <p>平泉町では達谷窟・柳之御所遺跡、奥州市では白鳥館遺跡・長者ヶ原廃寺跡が個別資産です。</p>
14	教育及び文化	27	世界遺産価値向上推進事業では、資産の価値向上という記載があるが、現状はとても難しいと思うが、一関市としてどのように考えているか。 また、事業費の内容について教えていただきたい。	<p>【一関市】（懇談会での回答のとおり）</p> <p>拡張登録に向けた取組は一区切りとなりましたが、調査研究は継続することとしており、発掘調査による新たな物証の発見や文献調査による新たな成果により、<u>資産の価値向上を目指します。</u></p> <p>一関市：骨寺村荘園遺跡調査研究事業のほか2事業 （事業費：10,059千円～12,784千円）</p> <p>平泉町：平泉遺跡群調査整備事業（達谷窟） （事業費：31,435千円～47,395千円）</p>
15	産業振興	14	二次交通整備事業については、平泉町内を歩く人が増えており、まちづくりをするチャンスではないかと思っている。 歩く場所に店があれば利用者がいると思うので、空き家を生かしていければよいのではないか。	<p>【平泉町】（懇談会での回答のとおり）</p> <p>平泉町内を運行している循環バスについて、新型コロナウイルス流行前は平日も運行されていましたが、現在は休日のみの運行となっています。</p> <p>町内観光については、巡回バスやレンタサイクルなど、<u>訪れる観光客のスタイルに合わせて、様々な手段により町内を巡っていただけるような取り組みを検討</u>していきます。</p> <p>「まち歩き」についても、その手段の一つとして考えており、少しずつではありますが新規事業者などによる出店もあることから、<u>既存事業者と連携した「まち歩き」を進める事業の検討</u>や、今年度は空き店舗調査を実施することから、その結果を踏まえた検討を行い、町内観光の推進に努めます。</p>

No.	政策分野	ページ	意見・質問	回答
16	産業振興	30	平泉スマートインターチェンジについては、大きなイベントの際には駐車場を含め利用者が伸びていると思うが、観光客を相対的に増やすことも必要であり、イベントの開催を含め、使用方法の検討をお願いしたい。	<p>【平泉町】</p> <p>イベントの際の、平泉スマートインターチェンジ及び駐車場の利用者は伸びています。</p> <p>イベントの開催については、<u>観光商工課で民間事業者が開催する公共性の高いイベントの補助を実施しており、種々のイベントが開催されている状況です。</u></p> <p>現在、スマートインターチェンジ駐車場については、公共性の高いイベントにのみ使用を許可していますが、<u>今後はイベントスペースとして収益性の高いイベントについても利用できるよう、方法等について検討を進めていきます。</u></p>
17	協働のまちづくり	33	多文化共生推進事業について、KPIが多文化共生事業への参加者数であるが、すぐに目標達成するものと考えられるが、目標の設定は正しいか。 また、様々な視点での事業が必要であるから、事業の中身や事業数の方が重要だと思いがいかか。	<p>【一関市】</p> <p>市の人口の約1%は外国籍の住民であり、主な在留資格は技能実習や特定技能などの労働目的のものが約半数を占めています。</p> <p>その中で<u>市民の国際化意識と国際理解の醸成を図るためには、外国人と日本人ということではなく、多文化共生社会への市民の関心を高めることが重要と考えています。</u></p> <p>このことから、多文化共生推進事業のKPIについては、市が主催する（一関市国際交流協会に委託するものを含む）多文化共生事業への参加者数を設定していますが、<u>実施する事業の内容により参加者数のばらつきが大きいこともあることから、KPIの検討を行います。</u></p>
18	教育及び文化	24	地元学事業について、KPIが地元学事業の参加率となっているが、この事業は何を指しているのか。 また、指標は参加率というくり方でよいか。	<p>【一関市】（懇談会での回答のとおり）</p> <p>地元学事業については、<u>主に博物館で実施している郷土の歴史、文化および産業について学ぶことのできる講座、講演会、体験学習等の事業を指しています。</u></p> <p>世代を超えて自主的・主体的に学び、考えながら交流を深めることのできる企画を提供しています。</p> <p>指標については、<u>参加者のニーズを反映した事業を提供しているかを評価するため、参加率を指標としたものです。</u></p>
19	教育及び文化		教育現場において、不登校児童が年々増加しており、学校でも対応方法について危惧しているところであるが、一関市に限らず、岩手県内でスクールソーシャルワーカーの存在が少ないというのが現状である。 スクールソーシャルワーカーの必要性は高まっていると思うので、教育現場にこういう方を入れる取組はできないか。	<p>【一関市】</p> <p>スクールソーシャルワーカーは不登校児童生徒やその家庭に対する環境資源の提供者として、とても重要な存在であると考えています。</p> <p>そのため、<u>任用者である県に対して、増員を希望しているところであり、また、社会福祉士の有資格者を県に情報提供することに努めています。</u></p>

第2次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン 成果指標（KPI）の実績概要

令和6年10月9日（水）
令和6年度第2回ビジョン懇談会
資料No.2-1

【成果指標（KPI：Key Performance Indicator）設定の意義】

第2次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン（計画期間：令和元年度～令和5年度）における具体的な取組の進捗管理を行い、次期定住自立圏共生ビジョン策定の基礎とするため、達成目標として成果指標を設定しています。

【第2次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの「成果指標」達成状況について】

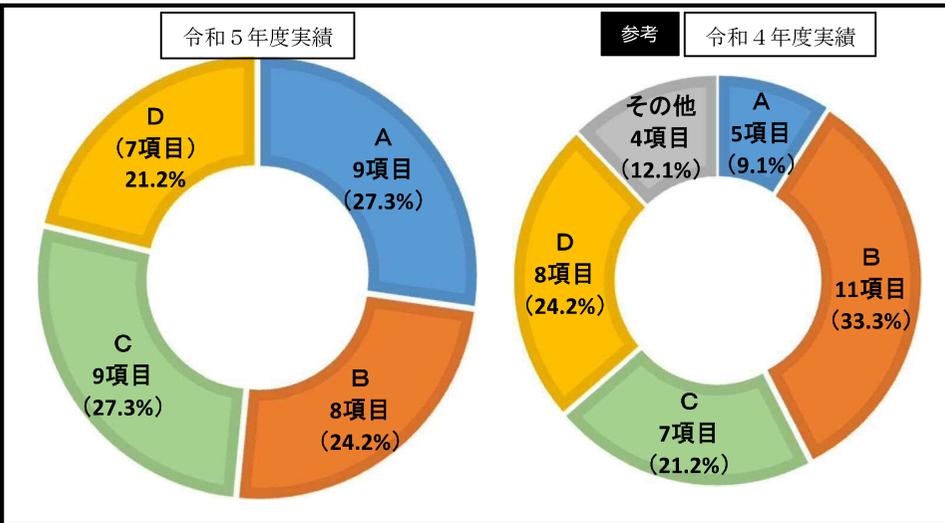
第2次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンでは、「成果指標」を33項目設定し、進捗管理・達成状況を把握しました。

計画期間最終年度である令和5年度末時点での結果は、以下のとおりです。

- A：達成（進捗率100%以上） 9項目（27.3%）
- B：概ね達成（進捗率80%～99%） 8項目（24.2%）
- C：ある程度達成（達成率50%～79%） 9項目（27.3%）
- D：未達成（達成率50%未満） 7項目（21.2%） → 7項目のうち6項目で利用者数など数値を目標としている。

【達成状況の推移】

No.	分野	①施策区分	②成果指標（KPI）	R1	R2	R3	R4	R5
1	医療	休日・夜間診療体制確保事業	○休日及び夜間に対する診療の充足率	A	A	A	A	A
2	医療	新型コロナウイルスワクチン接種事業	○ワクチン接種率	/	/	A	A	A
3	医療	地域医療確保対策事業	○医師・医療介護従事者修学資金貸付修学者数	B	B	A	B	B
4	福祉	子育て世帯の負担軽減事業	○保育料が無料となる第3子以降の数	A	A	B	B	A
5	福祉	子育て環境整備事業	○地域子育て支援拠点事業の利用者数	B	C	D	D	D
6	福祉	在宅医療・介護連携推進事業	○医療・介護連携推進団体の研修、セミナー等の参加者数	A	D	D	C	B
7	福祉	介護人材育成事業	○介護人材の確保に資する事業の利用者数	A	A	A	B	B
8	福祉	成年後見制度利用支援事業	○成年後見制度の研修会、講演会の参加者数	/	/	/	/	D
9	産業振興	世界遺産「平泉」を核とした観光地域づくり事業	○圏域内の宿泊者数	B	C	C	B	B
10	産業振興	インバウンド推進事業	○圏域内の外国人宿泊者数	D	D	D	D	C
11	産業振興	観光地間二次交通整備事業	○二次交通整備事業のバス乗車数	B	D	D	D	C
12	産業振興	もち食文化発信事業	○もちサミットの来場者数	/	/	/	/	D
13	産業振興	一関・平泉ハルーンフェスティバル事業	○ハルーンフェスティバルの来場者数	/	/	/	/	C
14	産業振興	地域内発型産業創出事業	○産学官イノベーション研究会の参加者数	C	D	D	C	C
15	産業振興	企業立地促進事業	○工場の新設・増設または設備投資を行った企業数（累計）	D	D	D	C	C
16	産業振興	地産外商促進事業	○地産外商イベントにおける新規参加者の割合	A	/	A	/	D
17	産業振興	農林水産業6次産業化支援事業	○6次産業化支援事業により商品化・製品化した数（累計）	D	D	C	C	C
18	産業振興	地元就業定着支援事業	○高校生を対象とした地元企業に対する理解促進を図るイベントでの参加者の満足度	B	A	B	B	A
19	産業振興	起業・創業支援事業	○起業支援セミナーの参加者数（累計）	B	C	C	A	A
20	教育及び文化	学校給食運営事業	○地場産品に関する食育活動の実施回数	C	C	C	C	C
21	教育及び文化	将来世代の人材育成事業	○圏域の中学3年生のうち、将来の夢や目標を持っている生徒の割合	B	/	B	B	B
22	教育及び文化	地元学事業	○地元学事業の参加者数及び開催回数	B	C	C	B	A
23	教育及び文化	学術・スポーツ振興事業	○東北規模以上の学会や大会等の開催数	A	C	D	D	D
24	教育及び文化	世界文化遺産調査整備事業	○包括的保存管理計画に基づく無量光院跡の整備進捗率	B	B	B	B	B
25	教育及び文化	世界遺産拡張登録推進事業	○世界遺産「平泉」の構成資産数	D	D	D	D	D
26	消防・防災	広域消防事業	○消防防災セミナー参加人数	C	D	D	D	C
27	地域公共交通	生活バス路線対策事業	○人口に対するコミュニティバス等の乗車人数（延べ）割合	B	B	B	C	B
28	交通インフラ整備	主要幹線道路等整備促進事業	○平泉スマートインターチェンジの1日当たりの利用台数	/	/	D	D	C
29	交通インフラ整備	幹線道路等整備事業	○市道、町道（幹線道路）改良率	B	B	B	B	B
30	協働のまちづくり	協働のまちづくり事業	○地域活動の事業数	A	C	B	B	A
31	地域外の住民との交流、移住促進	移住定住交流促進事業	○お試し移住の宿泊者数	D	/	D	D	D
32	地域外の住民との交流、移住促進	結婚活動支援事業	○合同婚活イベントのカップル成立組数（累計）	D	/	C	C	A
33	中心市等における人材育成	農村地域づくり支援事業	○外部人材が支援した地域数	D	C	B	B	A



【令和5年度達成状況】

- ・令和4年度と比較して達成度Aが4項目増加し、取組が成果として表れている。
 - ・全体として達成度（進捗率）は上昇傾向となっており、令和元年度以来、進捗率80%以上の項目が半数以上となった。
 - ・新型コロナウイルスの発生以降、初めて全ての項目で評価を行うことができた。
- なお、圏域内の宿泊者数などの指標は、コロナ前の水準まで戻ってきている。

【第2次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける成果の概要と今後の取組】

進捗率80%以上の項目が17項目（51.5%）と、半数以上は目標が達成された状況となっているものの、進捗率50%未満の項目が7項目（21.2%）となっています。

具体的な取組については、第2次計画からの継続事業としているものが多いことから、進捗率が低い事業を含めて、「自立」「定住」し続けられる圏域を目指し、引続き取り組みを進めます。

また、昨年度の第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの策定に当たっては、事業の内容や成果指標の設定などについては、適宜見直しをすることとしており、第2次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの成果や両市町の施策を受け、必要に応じて第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの見直し・改定を行います。

※具体的な取組ごとの目標値に対する進捗状況・成果及び今後の取組等は別紙「第2次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン 成果指標（KPI）実績一覧」に記載しています。

第2次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン 成果指標(KPI)実績一覧

No.	分野	①施策区分	②重要業績評価指標(KPI)	単位(達成度)	③現状値(H30)	④実績値(R1)	⑤実績値(R2)	⑥実績値(R3)	⑦実績値(R4)	⑧実績値(R5)	⑥目標値(R5)	No.	⑦事業名(取組)	目標値に対する進捗状況、成果	今後の取組等
1	医療	休日・夜間診療体制確保事業	○休日及び夜間に対する診療の充足率	%	100	100 [A]	100 [A]	100 [A]	100 [A]	100 [A]	100	① 休日・夜間当番医制運営事業 【進捗状況・成果】 ①休日当番医：受診者数 7,191人 ②夜間救急当番医：受診者数 1,187人 入院や手術などが必要な患者を受け入れてくれる県立病院等の救急医療(二次救急)体制の維持・確保のため、市では医療機関の適正受診の普及啓発に取り組んでいる。 また、県に対し、住民が急な病気などの際に救急車を呼ぶべきか相談できる救急安心センター事業(＃7119)を実施するよう要望している。	【今後の取組等】 休日及び夜間等における初期救急(一時救急)のための医療提供体制を確保し、住民の安心に寄与した。今後も継続して取り組んでいく。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 成果指標(KPI)：「休日及び夜間等に対して診療を実施した割合」に変更		
2	医療	新型コロナウイルスワクチン接種事業	○ワクチン接種率	%				※ワクチン2回目接種(5歳以上) 一関市 88.2% [A] 平泉町 88.9% [A]	※ワクチン2回目接種(5歳以上) 一関市 90.4% [A] 平泉町 94.3% [A]	※ワクチン2回目接種(5歳以上) 一関市 88.6% [A] 平泉町 96.5% [A]	80	① 新型コロナウイルスワクチン接種事業 【進捗状況・成果】 (一関市) 医療機関による個別接種と一関市総合体育館を会場とした集団接種による接種体制を構築し、住民へのワクチン接種の推進に努めた。 令和5年9月20日から実施した令和5年秋開始接種を受けた人は、全市民の39.1%(42,889人)となり、同時期の全国平均(22.7%)、県平均(32.3%)を上回っている。 (平泉町) 町民を対象に、長島体育館での集団接種を中心に一関市との共同接種体制を構築し個別接種を併用しながらワクチン接種を実施し関係機関、町民の理解と協力により高い接種率を確保できた。	【今後の取組等】 (一関市) 新型コロナウイルスの特例臨時接種は、令和6年3月31日で終了し、令和6年4月1日からは、季節性インフルエンザワクチンと同様に、高齢者などを対象として定期接種として実施する。 (平泉町) 今年度で集団接種は終了となるが、引き続き、希望する方がワクチン接種を受けられるよう、一関市医師会をはじめ、関係機関、町民の協力によりワクチン接種体制を推進していく。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 定期予防接種となり、特例臨時接種のような集団接種による接種体制の構築はないことから、第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの具体的な取組には掲載していない。		
3	医療	地域医療確保対策事業	○医師・医療介護従事者修学資金貸付修学者数	人	13	14 [B]	12 [B]	15 [A]	14 [B]	13 [B]	15	① 医師修学資金貸付事業 【進捗状況・成果】 県内を中心に高校や養成学校等に制度の周知を行ったが、令和5年度は目標値に及ばなかった。 【令和5年度実績内訳】 医師：0人 医療従事者：13人 合計：13人 ② 医療介護従事者修学資金貸付事業(医療従事者分) ③ 看護職員復職支援対策事業 ④ 臨床研修医研究支援事業	【今後の取組等】 医療介護従事者の人材を確保するため、今後も制度の周知に努めながら継続して取り組んでいく。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 成果指標(KPI)：「医師・医療介護従事者修学資金貸付修学者数のうち、市内就職者」に変更		
4	福祉	子育て世代の負担軽減事業	○保育料が無料となる第3子以降の数	人	186	199 [A]	218 [A]	174 [B]	178 [B]	202 [A]	180	① 第3子以降保育料軽減事業 【進捗状況・成果】 (一関市) 前年度より微増しているが、全体として少子化や育児休業制度の取得率の向上等により入所児童数が減少している傾向となっている。 ② 妊娠婦医療給付 ③ 妊娠婦交通費助成 (平泉町) 保育料の軽減により子育てにかかる経済的負担を軽減し、子どもを産み育てやすい環境づくりに努めた。 ④ 乳幼児から高校生までの医療給付 ⑤ 出産祝金給付	【今後の取組等】 (一関市) 令和5年度から、第2子以降の保育料が無償化となった。子育て世帯の負担軽減のため、制度の周知を行い、子育てをしやすい環境づくりに努める。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 成果指標(KPI)：「一関市及び平泉町の事業により保育料が無料となる第2子以降の数」に変更		
5	福祉	子育て環境整備事業	○地域子育て支援拠点事業の利用者数	人	27,932	23,154 [B]	15,804 [C]	12,127 [D]	10,778 [D]	11,819 [B]	27,600	① ファミリー・サポートセンター運営事業 【進捗状況・成果】 (一関市) 乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場を提供し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行うなど子育て世代への支援を行った。 ② 延長保育事業 感染症の影響は小さくなったが、こどもの減少や就園児の増加により、目標値は大きく下回った。 就園年齢が低年齢化しているため利用者数は伸び悩んでいるが、在学率の高い0歳児の利用は引き続き増加傾向である。 ③ 一時預かり事業(保育所) ④ 幼稚園一時預かり事業(一関市) ⑤ 地域子育て支援拠点事業(一関市) 新型コロナウイルス感染症の影響は小さくなったが就園年齢が低年齢化しているため利用者数は伸び悩んでいる。 ⑥ 子育て支援センター事業(平泉町) 乳幼児及び保護者が相互の交流を行う場として、子育てについての相談、情報提供、助言等の支援を実施し地域の子育て支援機能の充実を図るとともに、子どもの健やかな育ちを支援することに努めた。 ⑦ 新子育て支援センター施設整備事業(平泉町)	【今後の取組等】 (一関市) 保護者交流や育児相談の場として一定の需要はあると捉えており、今後も利用者ニーズを把握しながら事業内容を工夫するなどして、地域の子育て支援拠点機能の充実を図る。 (平泉町) 今後も乳幼児及び保護者が相互の交流を行う場として、子育てについての相談、情報提供、助言等の支援を実施し、地域の子育て支援機能の充実を図るとともに、子どもの健やかな育ちを支援していく。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 事業効果：「子育ての負担を軽減することにより、安心して子どもを産み育てる環境づくりに図られる。」に変更(旧：子育て世代の負担を軽減するとともに、子育てに関して同じ悩みを持つ仲間との交流も図られる。)		
6	福祉	在宅医療・介護連携推進事業	○医療・介護連携推進団体の研修、セミナー等の参加者数	人	632	1,071 [A]	277 [D]	17 [D]	373 [C]	561 [B]	650	① 地域医療・介護連携推進事業(一関市) 【進捗状況・成果】 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同等の5類感染症に変更となり、研修会等が実施されたものの、目標値の参加者数には達しなかった。 【研修会等開催回数(参加者数)】 ・市民フォーラム 1回(251人)・研修会 2回(123人) ・ケアカフェ 1回(22人)・出前講座 9回(165人) ・合計 13回(561人)	【今後の取組等】 より興味のある研修会等を企画し、目標値の参加者数を達成できるよう取り組んでいく。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 なし(継続)		
7	福祉	介護人材育成事業	○介護人材の確保に資する事業の利用者数	人	25	75 [A]	87 [A]	80 [A]	59 [B]	49 [C]	67	① 医療介護従事者修学資金貸付事業(介護福祉士分)(一関市) 【進捗状況・成果】 (一関市) 介護職員のスキルアップや資格取得支援、就労・定着支援を行ったが、事業の利用者数が減少傾向にある。 (平泉町) 町内介護事業所は一関市に本部が所在していることがほとんどで、町の介護人材確保事業よりも市の介護人材確保事業を活用するケースが多く、今後もその傾向は変わらないものと想定される。 ② 医療介護人材育成事業(一関市) ③ 介護職員初任者研修支援事業(平泉町)	【今後の取組等】 (一関市) 人材確保、育成に向けた取組を推進するため、講座内容等の充実と効果的な周知により、参加者数の拡大や市内の介護人材の確保を目指す。なお、令和6年度分より介護施設施設等人材育成支援事業について、対象とできる期間を拡大するなど、制度の見直しを実施している。引き続き、必要に応じ制度の見直しを図っていく。 (平泉町) 介護人材の確保に資するよう、引き続き周知内容と共に、制度の見直しも検討しつつ事業を実施していく。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 変更なし(継続)		

第2次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン 成果指標（KPI）実績一覧

No.	分野	①施策区分	②重要業績評価指標（KPI）	単位（達成度）	③現状値（H30）	④実績値（R1）	⑤実績値（R2）	⑥実績値（R3）	⑦実績値（R4）	⑧実績値（R5）	⑥目標値（R5）	No.	⑦事業名（取組）	目標値に対する進捗状況、成果	今後の取組等
8	福祉	成年後見制度利用支援事業	○成年後見制度の研修会、講演会の参加者数	人	0	0	0	0	0	0	100	①	成年後見制度利用支援事業	【進捗状況・成果】 関係者向けの研修会は実施したが、市民向けの研修は実施できなかった。	【今後の取組等】 令和6年度に市民向け研修を実施する予定で検討している。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 取組内容：成年後見制度の普及及び利用促進を図るためのネットワークである「一関地方権利擁護連携推進協議会」の立ち上げと取組を進めることを記載 役割分担：市町それぞれが必要となる費用の負担について記載
9	産業振興	世界遺産「平泉」を核とした観光地域づくり事業	○圏域内の宿泊者数	人	358,232	335,346 [B]	223,658 [C]	275,915 [C]	349,267 [B]	360,112 [B]	367,700	①	ワーケーション推進事業	【進捗状況・成果】 （一関市） コロナ禍以降、宿泊事業者や旅行事業者等に対するの各種支援策を行うとともに、県や平泉町、奥州市、宮城県栗原市、登米市など近隣市町村と連携して誘客事業に取り組んだことで、令和5年度の宿泊者数は、令和4年度と比べ3.3%増加し、コロナ禍前の令和元年度と比べても10%の増加となり、回復がみられた。 （平泉町） 観光誘客プロモーションの実施や近隣市等との連携した誘客事業の取り組みにより、宿泊観光需要の回復に努めた。	【今後の取組等】 （一関市） 観光の目的が多様化し、観光客のニーズに対応した観光情報の提供が求められていることから、SNS、パンフレット、TV、新聞、情報誌、プロモーション動画等、多彩なツールを活用した情報発信に努め、引き続き、誘客の促進に取り組む。 また、主要観光地や飲食店、土産物店、博物館、道の駅等の情報や一関ならではの体験資源を旅行者向けに広く周知するなどして、本市における滞在時間の増加に努め、宿泊者の増加に繋げる。 （平泉町） 町内関係団体等との連携した事業の取り組みや、さらなる観光誘客プロモーションの実施などにより、本市の魅力発信に努めるとともに、近隣市等との連携により広域観光の推進を図り、宿泊者数の増加に繋げる。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 ワーケーションによる滞在型観光の推進については、地域おこし協力隊の任期終了により具体的な取組から削除するが、上記の取組は継続して実施する。
10	産業振興	インバウンド推進事業	○圏域内の外国人宿泊者数	人	6,710	8,259 [D]	400 [D]	567 [D]	7,503 [D]	9,720 [C]	17,100	① ② ③	インバウンド推進事業 観光ガイド事業（一関市） インバウンド対応職員配置事業（平泉町）	【進捗状況・成果】 （一関市） コロナ禍以降続いていた行動制限の緩和により、令和4年10月以降海外からの受け入れが再開されるなど、訪日外国人観光客は増加傾向にあった。 令和5年度も顕著で、特に台湾から花巻空港や仙台空港への定期便が再開されるなど、台湾からの旅行者が大きな伸びを見せ、過去最多を記録した令和元年度の外国人観光客入込数を上回った。 また、民間事業者が実施する多言語案内看板の整備に対して支援を行い、受入環境の強化に努めた。 （平泉町） 花巻空港の台湾定期便再開やインバウンド観光需要の高まりとともに、台湾とタイにおいて海外誘客プロモーションを展開したことにより、コロナ禍後の外国人観光客入込数の増加とともに宿泊者数についても増加となった。	【今後の取組等】 （一関市） 引き続き、接客能力の向上、体験型観光資源の充実、多言語表示など受入環境整備に継続して取り組むとともに観光関係団体等との連携によるPR・情報発信の強化に努めていく。 （平泉町） さらなるインバウンド観光需要の高まりを見据え、観光関係団体等との連携による誘客プロモーションや情報発信に努めていく。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 取組内容：「国や県におけるインバウンド推進の取組と連動して、近隣市町村との連携によるインバウンド誘客に取り組むとともに、受入環境整備を継続して取り組む。」に変更（変更前：近隣市町村と連携し、アジアを中心としたプロモーションを行い、誘客を図るとともに、増加する訪日外国人観光客の受入環境の整備を進める。） 取組事業：「国際交流員活用事業（平泉町）」に変更（変更前：インバウンド対応職員配置事業）
11	産業振興	観光地間二次交通整備事業	○二次交通整備事業のバス乗車数	人	4,294	4,321 [B]	563 [D]	537 [D]	1,130 [D]	2,598 [C]	4,500	①	観光地間二次交通整備事業（一関市）	【進捗状況・成果】 観光客の円滑な移動手段（利便性）を確保し、周遊観光を促進させ、滞在時間や交流人口の拡大を図った。 利用者は、令和4年度と比較し、468人増加しており、コロナ禍以降減少していた観光客の利用状況は回復傾向にある。	【今後の取組等】 周遊観光の促進のため、二次交通網の整備は継続して行うが、費用対効果の観点から、利用実態の把握による運行形態の見直しやPR等により利用者の増加に努める。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 事業効果：「交流人口と滞在時間の増加による消費の向上、地域経済の活性化が図られる。」に変更（変更前：交流人口と滞在時間の増加による地域活性化が図られる。）
12	産業振興	もち食文化発信事業	○もちサミットの来場者数	人	24,366	台風のため中止	コロナのため中止	コロナのため中止	コロナのため中止	11,959 [D]	26,000	① ②	全国もちフェスティバル開催費補助金（一関市） 食と農の観光PR事業（一関市）	【進捗状況・成果】 一関の伝統的食文化である「もち食文化」を全国に向けて情報発信し、地域経済の活性化に繋がった。 また、スタンプラリーイベントの同時開催により、飲食店への集客及び街中の周遊促進に繋がった。 天候などの影響により、来場者数は想定よりも伸びなかった。	【今後の取組等】 継続して実施する。 開催方法や時期については、実行委員会にて検討していく。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 成果指標（KPI）：「もちマイスター検定合格者数（累計）」に変更
13	産業振興	一関・平泉バルーンフェスティバル事業	○バルーンフェスティバルの来場者数	人	16,500	台風のため中止	コロナのため無観客開催	コロナのため無観客開催	会場の分散化により、集計不可	9,253 [C]	17,500	①	一関・平泉バルーンフェスティバル事業（一関市）	【進捗状況・成果】 4年ぶりとなる通常規模開催とし、開催を通じて全国に情報発信するとともに、賑わいの創出、地域経済の活性化に繋がった。 一方で、必要経費や事業内容の見直しによる予算の削減、平日における賑わいイベントの縮小、さらには天候不具合も影響し、3日間を通じた来場者数は9,253人となった。	【今後の取組等】 継続実施により、滞在型観光の誘客を促進するほか、一時的な集客イベントだけでなく、宿泊利用や交流人口の拡大により、さらなる地域経済の活性化を図る。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 取組内容：「一関・平泉エリアの魅力を国内外に広く発信するため、熱気球イベント「一関・平泉バルーンフェスティバル」を開催し、交流人口や関係人口の拡大を図る。」に変更（変更前：スカイスポーツである熱気球によるバルーンフェスティバルを開催し、圏域内への誘客の推進を図る。）

第2次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン 成果指標（KPI）実績一覧

No.	分野	①施策区分	②重要業績評価指標 (KPI)	単位 (達成度)	③現状値 (H30)	④実績値 (R1)	⑤実績値 (R2)	⑥実績値 (R3)	⑦実績値 (R4)	⑧実績値 (R5)	⑥目標値 (R5)	No.	⑦事業名 (取組)	目標値に対する進捗状況、成果	今後の取組等
14	産業振興	地域内発型産業創出事業	○産学官イブニング研究交流会の参加者数	人	709	570 [C]	170 [D]	185 [D]	446 [C]	502 [C]	750	①	地域内発型産業創出事業（一関市）	【進捗状況・成果】 年間を通してコロナ前の従来のスタイルで開催し、産学官の連携強化とネットワークの構築を図ることができた。	【今後の取組等】 今後も、企業や一関高専教員、行政、産業支援機関等の様々な分野の方を講師に招いた講演会や農業種による交流会に向け、関係機関と連携して取り組んでいく。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 変更なし（継続）
												②	ものづくり産業振興事業（一関市）	参加者数は、目標数値に達していないが、令和4年度と比較し12.5%の増となった。	
												③	地域企業取組拡大支援事業（一関市）		
15	産業振興	企業立地促進事業	○工場の新設・増設または設備投資を行った企業数（累計）	社	15	12 [D]	21 [D]	33 [D]	45 [C]	60 [C]	85	①	企業立地促進奨励事業費補助金（一関市）	【進捗状況・成果】 新型コロナウイルス感染症の影響により計画当初から設備投資の動きが鈍かったが、令和5年度は各企業の投資活動に伸びが見られた。 (平泉町) 令和5年度は具体的な実績はなかったものの、立地企業への訪問や情報交換等により課題や要望を把握しながら、事業活動を支援した。	【今後の取組等】 (一関市) 今後も企業のニーズを把握し、市の支援策をPRすることで企業の新增設を支援していく。 目標に対する進捗状況は低調であるがコロナ禍が明け各企業の投資活動に伸びがみられることから、引き続き市の支援策をPRしていく。 (平泉町) 円安による輸入コストの増大や世界的な賃金上昇などの国際情勢などにより、企業の国内回帰や多拠点化、都市部から地方への人材の移動などの動きが加速していることから、事業活動の活性化に向けて、引き続き情報交換を行いながら支援していく。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 取組事業：「市内企業生産拠点整備事業費補助金（一関市）」を追加
												②	地域企業経営強化支援事業費補助金		
												③	生産設備等投資促進補助金（一関市）		
16	産業振興	地産外商促進事業	○地産外商イベントにおける新規参加者の割合	%	52	100 [A]	コロナにより未開催	100 [A]	コロナのため、中止	0 [D]	57	①	地産外商促進事業	【進捗状況・成果】 市内農林業者、食品製造業者等が首都圏の流通関係者、食産業事業者に対し、商談会を8月、3月に実施した。新規参加者は0件であるが、市場ニーズの向上、マーケティング力や商品力の向上及び販路拡大等、生産者のビジネス展開を図ることができた。	【今後の取組等】 今後においても、首都圏の流通関係者、食産業事業者に対し、商談につながる取組を検討していく。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 取組内容：「生産者と首都圏等の流通事業者とのマッチングを図り、生産者のビジネス展開に繋がる支援を行う。」を追記（変更前：首都圏等において開催するイベントで、圏域の食文化や生産環境等も交えて生産者が食材や商品の紹介を消費者へ直接PRし、農産物や圏域の魅力の発信を行う。）
17	産業振興	農林水産業6次産業化支援事業	○6次産業化支援事業により商品化・製品化した数（累計）	件	2	9 [D]	10 [D]	14 [C]	18 [C]	20 [C]	31	①	農商工連携開発事業費補助金（一関市）	【進捗状況・成果】 (一関市) 地域の農産物を活用した加工品開発や施設整備などを支援する農商工連携開発事業費補助金を継続し、市内事業者の連携による1件の商品化につながった。 (平泉町) 成果品は各種イベント等で販売や紹介を行い、販路開拓・特産品を目指して活動を継続している。	【今後の取組等】 (一関市) 消費者や小売事業者、外食事業者などの商品のバイヤーのニーズを踏まえた商品開発やその先の販路を見据えた事業展開が必要であることから、商品開発や販路拡大のスキルを習得する販路開拓セミナーや商品のバイヤーとのマッチングの機会となる商談会の開催などを通じて、販路拡大や地域資源を活用した地域ブランド創出を目指す生産者等が実践的なビジネス展開を図ることができるような支援策を今後も取り組んでいく。 (平泉町) 6次化を目指す新たな事業者等を継続的に発掘するため、広報やHPを使った周知活動を引き続き行い、製品化した商品に関しては、ふるさと納税の返礼品とすることを目標とする。R6年度は1件見込みがあり、商品化に向けて取組中。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 役割分担：「面市町が地域おこし協力隊を任用し、地域おこし協力隊と連携した商品開発支援を行う。」を追記
												②	6次産業化促進支援事業費補助金（平泉町）		
18	産業振興	地元就業定着支援事業	○高校生を対象とした地元企業に対する理解促進を図るイベントでの参加者の満足度	%	92.0	94.3 [B]	98.4 [A]	90.8 [B]	82.4 [B]	96.0 [A]	96.0	①	希望のまち基金事業	【進捗状況・成果】 市内高校2年生を対象に実施した「いちのせきしごと発見フェア」のアンケートにおいて「大変参考になった」「参考になった」との回答の割合が96.0%となった。 「様々な職業のことを知ることができたので、今後の就職活動に活かしたい」との声が多く聞かれ、高校生が就職活動を行うにあたり、地元企業に目を向けるきっかけ作りとして効果があった。	【今後の取組等】 平成29年6月、いわてで働こう推進協議会が県内の大学生、高校生を対象に実施した「岩手県の若年者雇用動向調査」によると、岩手県内の企業を3社以上知らない学生、生徒の割合が62.1%となっており、若者に対する知名度向上が課題となっている。 高校生が就職を考える前の段階で地域の企業や産業等を知ること、地元就職及び地元定着の促進が図られるような取組を継続する。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 取組事業：「若者等人材育成支援事業補助金（一関市）」を追加
												②	若者等ふるさと就職支援事業費		
												③	地域企業魅力発見事業（一関市）		
												④	次世代のものづくり定住促進対策事業（一関市）		
												⑤	企業魅力発見事業（一関市）		
												⑥	若者地元就業定着支援事業（一関市）		
												⑦	インターンシップ促進助成金（一関市）		
												⑧	奨学金返還補助事業（一関市）		
												⑨	新規学卒者等就職促進支援事業（一関市）		
												⑩	新規就農者支援事業補助金（平泉町）		

第2次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン 成果指標（KPI）実績一覧

No.	分野	①施策区分	②重要業績評価指標（KPI）	単位（達成度）	③現状値（H30）	④実績値（R1）	⑤実績値（R2）	⑥実績値（R3）	⑦実績値（R4）	⑧実績値（R5）	⑥目標値（R5）	No.	⑦事業名（取組）	目標値に対する進捗状況、成果	今後の取組等
19	産業振興	起業・起業支援事業	○起業支援セミナーの参加者数（累計）	人	49	215【B】	160【C】	193【C】	286【A】	530【A】	250	① ② ③ ④	いちのせき起業応援事業（一関市） ひらいずみ創業塾（平泉町） 空き店舗入居支援事業（一関市） 空き店舗対策事業（平泉町）	【進捗状況・成果】 （一関市） 起業しようとする方が起業しやすい環境となるよう、起業に向けた基礎知識を学ぶ場の提供のほか、起業家コミュニティの形成と定着に向けて毎月起業イベント（交流会や講座）を開催したこともあり、前年の倍に近い参加者数を確保することができた。 （平泉町） 令和5年度においては、町で実施しているプログラミング語講座の受講生もセミナーに加え、創業に向けた基礎知識の習得や計画の策定などについて、全4回講座の創業セミナーを関係機関と連携して開催し、若手経営者や後継者の育成に努めた。 （平泉町） 引き続き商工関係団体と連携し、創業を目指す人材の掘り起こしと育成に努める。	【今後の取組等】 （一関市） 今後の起業支援の取組として、市と関係機関との連携を図る体制を構築し、支援体制を強化するほか、相談体制や情報提供の充実に取り組み。 また、起業した方が、事業を安定的に継続しているよう、経営能力及びマネジメント能力の向上、経営改善、経営安定化のノウハウの習得を支援する講座や、新たなブランドの確立と、シニアプロモーションの創出を目指す事業を令和6年度に実施する。 （平泉町） 引き続き商工関係団体と連携し、創業を目指す人材の掘り起こしと育成に努める。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 取組内容：「起業家精神の醸成を図り、起業・創業の知識を学ぶ起業応援講座やセミナー等を開催する。」を追加 成果指標（KPI）：「講座受講者における起業者数」に変更
20	教育及び文化	学校給食運営事業	○地場産品に関する食育活動の実施回数	回	38	41【C】	31【C】	42【C】	42【C】	38【C】	54	① ② ③	学校給食センター運営費（一関市） 平泉中学校給食事務委託事業（平泉町） 郷土愛を育む食育交流事業（一関市）	【進捗状況・成果】 （一関市） 生産者との交流給食については、各施設において感染予防策を講じることで、新型コロナウイルス感染症発生以前の状態と同様に行えるようになった。 （平泉町） 地場産物の活用及び地元給食食材生産者との交流給食等を通じ、食育の推進及び安心安全な給食提供への理解を深めることができた。 （一関市）	【今後の取組等】 （一関市） さらなる食育推進に向け、学校・保護者・地域と連携を深められるように創意工夫し、持続性のある取組を行っていく。 （平泉町） 食育活動推進を継続できるよう、学校及び生産者と連携協力し、交流給食や様々な体験が実施できるよう助言等を行っていく。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 変更なし（継続）
21	教育及び文化	将来世代の人材育成事業	○圏域の中学3年生のうち、将来の夢や目標を持っている生徒の割合	%	72.0	72.4【B】	コロナのため調査未実施	67.0【B】	65.1【B】	66.2【B】	77.0	① ② ③ ④ ⑤	英語の森キャンプ事業費（一関市） 外国語指導助手配置事業（平泉町） 中学生最先端科学体験研修事業（一関市） 中学生の社会体験学習事業（一関市） 中学生ILC特別授業実施事業（一関市）	【進捗状況・成果】 （一関市） 市事業への生徒の積極的な参加がみられるようになってきている。 （平泉町） 英語の森キャンプ事業（中学校2年生8人、小学校6年生1人）や中学生最先端科学体験研修事業等を実施するなど、生徒たちの多様な教育機会を設けることができた。 一関市：夢や目標を持っていると回答（792人中530人） 平泉町：夢や目標を持っていると回答（52人中29人） 全体：夢や目標を持っていると回答（841人中559人）	【今後の取組等】 （一関市） 市事業で学んできたことを個人で終わりにするのではなく、学校の行事等でも学んだことの活用を促していく。 （平泉町） 各種事業を展開し、働く意義を学ぶ場や多様な活動体験による多様な学習の機会を設けていく。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 成果指標（KPI）：「将来世代の人材育成事業に参加した圏域の中学2年生及び3年生のうち、将来の夢や目標を持っている生徒の割合」に変更
22	教育及び文化	地元学事業	○地元学事業の参加者数	人	1,498	1,472【B】	1,244【C】	1,219【C】	1,514【B】	1,760【A】	1,680	① ②	地元学を通じた交流事業（一関市） ～過去に学び、今を見つめ、未来を考える～平泉ひとづくり事業（平泉町）	【進捗状況・成果】 （一関市） 体験学習事業の見直しを行い、2事業を廃止したことから、参加者数が減少した。 （平泉町） 子どもたちの発達段階に応じた平泉学（地域学習）を推進するとともに、各行政区における地域学習の取組を通して、世代を越えて学び合うことで郷土への愛着と誇りの醸成が図られた。 （平泉町） 子どもたちの発達段階に応じた平泉学（地域学習）を推進するとともに、各行政区における地域学習の取組を通して、世代を越えて学び合うことで郷土への愛着と誇りの醸成が図られた。	【今後の取組等】 （一関市） 市民のニーズに即した事業を実施し、参加者増加につなげる。 広報活動の展開により、新規講座利用者の掘り起こしを行う。 小中学校や社会教育事業等との連携を働きかける。 （平泉町） 学校教育と社会教育の連携による系統的な学習機会の提供と、子どもたちを中心とした地域で地域を学び合う場を創出していくことで、全世代型の平泉学（地域学習）を引き続き推進していく。
23	教育及び文化	学術・スポーツ振興事業	○東北規模以上の学会や大会等の開催数	回	3	4【A】	2【C】	1【D】	0【D】	0【D】	4	①	学会等開催補助金（一関市）	【進捗状況・成果】 事業実施 0件（事業申請無し）	【今後の取組等】 以上の進捗状況やコロナの影響を踏まえながら、引き続き、学会等の開催誘致や事業周知に取り組む。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 取組事業：「スポーツ大会開催補助金（一関市）」を追加
24	教育及び文化	世界文化遺産調査整備事業	○包括的保存管理計画に基づく無量光院跡の整備進捗率	%	63	90【B】	93【B】	94【B】	95【B】	96【B】	100	①	平泉遺跡群調査整備事業（平泉町）	【進捗状況・成果】 湖北東側護岸・池底及び隣接する道路の修景護岸の整備を行った。	【今後の取組等】 国庫補助金減額の影響を受け整備進捗に影響が出ており、完成までに数年を要する見込み。 令和6年度は舞台整備に伴う部材購入及び取水路整備を実施する予定である。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 変更なし（継続）

第2次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン 成果指標（KPI）実績一覧

No.	分野	①施策区分	②重要業績評価指標（KPI）	単位（達成度）	③現状値（H30）	④実績値（R1）	⑤実績値（R2）	⑥実績値（R3）	⑦実績値（R4）	⑧実績値（R5）	⑥目標値（R5）	No.	⑦事業名（取組）	目標値に対する進捗状況、成果	今後の取組等
25	教育及び文化	世界遺産拡張登録推進事業	○世界遺産「平泉」の構成資産数	資産	0	0 [D]	3	①	骨寺村荘園遺跡調査研究事業（一関市）	【進捗状況・成果】 県と関係市町で、柳之御所遺跡を追加する拡張登録推薦書案を作成すること等について申し合わせがされた。	【今後の取組等】 一関市） 資産の価値向上及び将来的な拡張登録に向けた調査研究を継続していく。 （平泉町） 柳之御所遺跡については国県と連携し推薦書案の作成に向けた作業を進めていく。 遠谷館については、資産の価値向上及び将来的な拡張登録に向けた調査研究を継続していく。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 施策名：「世界遺産価値向上推進事業」に変更（変更前：世界遺産拡張登録推進事業） 取組内容：「世界遺産「平泉」の関連資産である「柳之御所遺跡」、「遠谷館」、「骨寺村荘園遺跡」の調査研究及び保存管理を実施する。」に変更（変更前：拡張登録の推進を図る。） 成果指標（KPI）：「骨寺村荘園交流施設利用者数」（一関市）、「拡張登録に向けた史跡遠谷館の発掘調査進捗率」（平泉町）に変更 事業効果：「関連資産の調査や適切な整備及び保存管理、並びにその価値と魅力の情報発信を実施することで、地域住民のみならず、圏域住民が共有の財産として認識し、文化財保護の意識が向上する。」に変更（変更前：調査や保存整備が行われることにより、世界遺産の拡張登録に向けた環境整備が図られる。）				
												②	骨寺村荘園遺跡世界遺産登録推進事業（一関市）		
												③	拡張登録推進事業（平泉町）		
26	消防・防災	広域消防事業	○消防防災セミナー参加人数	人	12,246	9,827 [C]	3,641 [D]	4,622 [D]	4,836 [D]	7,454 [C]	13,000	①	常備消防事業（一関市）	【進捗状況・成果】 令和5年度は、令和4年度と比較して参加人数は2,618名の増加、実施回数は35回の大幅な増加となり、セミナー参加者に対して防災意識啓発を図ることが出来た。	【今後の取組等】 住民への防災意識啓発のため、自主防災組織をはじめとして消防団や企業、学校などへ消防・防災セミナーの参加を促していく。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 事業効果：「圏域住民の安全・安心の確保、防災意識の向上が図られる。」に変更（変更前：圏域住民の安全・安心の確保、向上が図られる。）
												②	消防事務委託事業（平泉町）		
27	地域公共交通	生活バス路線対策事業	○人口に対するコミュニティバス等の乗車人数（延べ）割合	%	130	113.0 [B]	117.2 [B]	107.7 [B]	102.9 [C]	118.0 [B]	130	①	バス運行事業費補助金（一関市）	【進捗状況・成果】 （一関市） 川崎地域へのデマンド型乗合タクシーの導入、花泉地域のデマンド型乗合タクシーのエリア拡大、バス時刻の見直しなどに取り組んだ。 また、令和5年度から大東地域の中学校統合に伴い、市営バスを利用して通学することとなり、大東地域の市営バス利用者が増えたが、沿線人口の減少や車社会の進展などにより、指標の目標値を下回る結果となった。 （平泉町） 患者輸送バス運行事業（平泉町） コミュニティバス利用ガイドを作成し、利用者の利便性向上を図ったほか、利用促進に向けて全戸配布により周知した。	【今後の取組等】 （一関市） 今後も利用者ニーズを踏まえ、利便性と効率性の向上を図っていく。 （平泉町） 平泉町地域公共交通計画の策定（R6年度予定）に当たり、公共交通体系の維持に支障が生じている現状を踏まえ、住民意見を聴取し、関係機関と連携を図りながら持続可能で効果的な公共交通のあり方を検討していく。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 変更なし（継続）
												②	市営バス運行事業（一関市）		
												③	廃止路線代替バス運行補助金（平泉町）		
												④	患者輸送バス運行事業（平泉町）		
28	交通インフラ整備	主要幹線道路等整備促進事業	○平泉スマートインターチェンジの1日当たりの利用台数	台	2021年3月供用開始	-	-	411 [D]	600 [D]	700 [C]	1,300	①	平泉スマートIC関連整備事業（平泉町）	【進捗状況・成果】 観光地へのアクセス向上や、物流企業が立地する工業団地への距離短縮による物流の効率化に大きく寄与している。	【今後の取組等】 平泉スマートインターチェンジ駐車場でイベント開催などの連携や、企業誘致の促進により、利用台数を増加させる事業を検討していく。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 取組事業：「平泉スマートIC関連事業」に変更
29	交通インフラ整備	幹線道路等整備事業	○市道、町道（幹線道路）改良率	%	56.7	57.1 [B]	57.0 [B]	57.2 [B]	57.4 [B]	57.6 [B]	57.7	①	広域基盤整備事業（一関市）	【進捗状況・成果】 （一関市） 現道を最大限利用した道路の整備を実施し工事費を抑えたことで、目標以上の成果を達成した。 （平泉町） 平泉町の幹線道路における改良整備令和5年度実績はなかったが、目標値には達している。	【今後の取組等】 （一関市） 目標を達成したものの、多くの道路要望を受けており、今後も交付金を活用した予算確保に努め、事業を推進する。 （平泉町） 特になし 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 変更なし（継続）
												②	町道祇園線道路整備事業（平泉町）		
30	協働のまちづくり	協働のまちづくり事業	○地域活動の事業数	事業	384	402 [A]	288 [C]	365 [B]	368 [B]	413 [A]	385	①	市民活動推進事業（一関市）	【進捗状況・成果】 （一関市） 令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の感染法上の分類が5類に移行したことにより事業に制限がなくなったことから、各地域協働体が計画した事業は概ね開催され、地域の課題解決に寄与した。 （平泉町） 協働のまちづくり交付金事業については、4団体に交付金を交付した。地域住民の自主的な地域活動を支援を行い、コロナ禍で断続的であった地域活動の回復、地域コミュニティの活性化及び交流人口の創出を図ることができた。	【今後の取組等】 （一関市） 地域協働体を取り組む事業数は、コロナ禍以前の水準に戻っていることから、引き続き地域の課題解決に向けた取組を支援していく。 （平泉町） コロナ禍の影響により停滞していた地域活動の再起に向け、本交付金事業の積極的な活用を促進し、町更なる活性化につながるよう地域住民の主体的な取り組みを継続して支援していく。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 変更なし（継続）
												②	地域協働体活動費補助金（一関市）		
												③	協働のまちづくり推進事業（平泉町）		

第2次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン 成果指標（KPI）実績一覧

No.	分野	①施策区分	②重要業績評価指標（KPI）	単位（達成度）	③現状値（H30）	④実績値（R1）	⑤実績値（R2）	⑥実績値（R3）	⑦実績値（R4）	⑧実績値（R5）	⑥目標値（R5）	No.	⑦事業名（取組）	目標値に対する進捗状況、成果	今後の取組等
31	地域外の住民との交流、移住促進	移住定住交流促進事業	○お試し移住の宿泊者数	人	13	4【D】	コロナにより未実施	1【D】	0【D】	1【D】	30	①	移住定住環境整備事業	【進捗状況・成果】 いちのせき暮らし体験ツアーから、そのままお試し移住を活用したことにより、実績1となった。	【今後の取組等】 本気で移住を検討している方にお薦めし、移住に結び付けることができるように取り組んでいく。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 成果指標（KPI）：「空家バンク成約による移住者数」に変更 役割分担：「相互に情報交換」を追記
												②	地域間交流推進事業		
32	地域外の住民との交流、移住促進	結婚活動支援事業	○合同婚活イベントのカップル成立組数（累計）	組	6	9【D】	コロナにより未実施	11【D】	15【D】	24【A】	19	①	結婚活動支援事業	【進捗状況・成果】 対面式のイベントを2回開催。男性23人、女性14人が参加し、カップル9組が成立した。	【今後の取組等】 引き続き広域での出会いの場の創出に取り組んでいく。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 取組内容：「相談会開催等による結婚支援」を追記
33	中心市等における人材育成	農村地域づくり支援事業	○外部人材が支援した地域数	地域	33	11【D】	27【C】	33【B】	36【B】	41【A】	40	①	緑のふるさと協力隊地域支援事業（一関市）	【進捗状況・成果】 目標支援地域数である40地域を達成した。 地域支援を行った外部人材21名のうち6名が定住し、今後1名が起業し定住する予定となっている。	【今後の取組等】 本支援事業は令和5年度で終了となったが、定住見込みとなっている隊員は地域ブランドの開発、販路拡大の取組による起業を計画していることから、支援を行う。 【第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける変更点】 支援事業の終了に伴い、農村地域づくり支援事業は具体的な取組から削除するが、「DX地域活性化事業」を新規事業として計上
												②	農村地域づくり活動支援事業（一関市）		

第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン改定等スケジュールについて

1 令和6年度ビジョン懇談会等開催の経過

- (1) 令和6年6月5日（水） 第1回一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会開催
 議題：① 県内定住自立圏における将来推計人口について
 ② 第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンにおける取組事業について
- (2) 令和6年10月9日（水） 第2回一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会開催（本日）
 議題：① 令和6年度第1回一関・平泉定住自立圏共生ビジョン懇談会の意見、質問について
 ② 第2次一関・平泉定住自立圏共生ビジョン成果指標（KPI）に対する実績について

2 第3次一関・平泉定住自立圏共生ビジョンの改定などに関する今後の予定

- (1) 懇談会でいただいたご意見を各課へ提供し、以下のとおり分類し検討します。
 - ① 令和7年度予算で反映できる事業は、令和7年1月中旬の改定作業で内容の変更等を行い、令和7年度予算成立後、ビジョンの改定をします。
 - ② 令和7年度予算で反映できない事業は、令和8年度の改定に向け引き続き検討します。
- (2) ビジョンの改定内容は、令和7年度第1回ビジョン懇談会で報告します。
 併せて、市町連携事業のご意見やご提言を伺い、令和7年度末の改定に向け検討します。

		R6年度						R7年度				
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
市民会議	ビジョン懇談会②								ビジョン懇談会①			
	・第2次共生ビジョンの実績等について ・意見、提言の検討状況の報告 ・ビジョンの改定について								・ビジョンの改定について ・市町連携事業の提案、意見等			
第3次共生 ビジョン	各課へフィードバック									各課へフィードバック		
	R7予算で反映できる事業 → 改定作業 R7予算で反映できない事業 → R7未改定へ向け検討						改定			R7未改定へ向け検討		各課 予算要求
議会等	市議会定例会（一関市） 12/3～13											
	市議会定例会（一関市） (2/18～3/13) ・R7予算議決											

※市議会の開催日程は予定であり、決定したものではありません。